

旭川校をご利用いただいている

# 受講企業の声



当校を実際にご利用頂いている企業の声をご紹介します。

旭川校に対しての考え方や自社ビジョンなど、とても貴重なご意見をいただきました。

今後も皆様と共に歩み、信頼される大学校を目指し、中小企業の「ひとづくり」に貢献できるように努力してまいります。

## 株式会社道北バス

代表取締役社長 大上 修一 氏

### ■時代のキーワードは「変化に対応できる体力」

「これまでと同じことをやっていると事業として成り立たない」。こう危機感を表すのは、北海道旭川市を拠点とする道北バスの大上修一代表取締役社長だ。

人口約34.5万を抱える北海道第2の都市・旭川市も人口微減が続き、同市で最大の路線数を持つ同社も「路線バスの利用客数は昭和40年代のピーク時に比べ、約3分の1に減った」。中高生らは少子化の影響で減り、高齢者も自動車で移動する機会が増えているため、「輸送人員の減少に歯止めがかからない」状況という。

### ■道北地域の将来を見据えた ビジネスモデルの構築を目指す

そこで力を入れているのが、都市間バスだ。「ドル箱」路線ともいえる札幌市をはじめ、帯広、北見、釧路など主要都市や観光地を結ぶ11の路線を展開。観光地向けでは、北海道で代表的なガーデンが集中する旭川から富良野、十勝などを結ぶ「ガーデン街道」も運行。「都市間や観光地のネットワークはできており、一定の旅客数を確保している」。



高速道路の延伸などによりインフラ拡充も進み、「一般道から高速へという流れが出てきている」。この3月には新青森・新函館北斗間の北海道新幹線が開業。将来的には札幌まで伸びる予定で、「時間はかかるが、都市間輸送は拡充されていく」と予想される。

観光客の増加も追い風だ。平成26年度の北海道観光客は5,377万人（道庁調べ）と3年連続で増加し、過去最高を記録。とくに外国人は154万人と、平成23年度比で倍増している。道北バスもこれに対応、観光路線の運転手や営業所の一部には16カ国語の翻訳アプリを搭載したスマートフォンやタブレット端末を配備している。

### ■経営方針の柱は「社員の育成」 “自ら学ぶ風土”が定着

とはいえ、主力の路線バスの先行きが見通せないため、3年前に就任した大上社長は人材育成に乗り出した。それまで

社外研修はやっていなかったが、「バス事業だけの論理ではなく、客観的な視点を持ってもらいたい」と、平成24年から中小企業大学校旭川校の研修受講を始めた。

これまでに22回にわたり、19人を派遣し、「課長以上はだいたい受講済み」。研修後は感想や決意などをレポートとして提出させており、「各種の資格取得に合わせて受講する場合もあり、学ぶ意識が上がってきた」と、成果は上々のようだ。

社外研修だけでなく、昨年から月に1回、管理職を対象とした早朝研修も実施するなど、自ら学ぶ風土が定着してきている。

### ■異業種交流による刺激、“客観的視点”と“学ぶ意識”が向上

実際に経営管理者養成コースを受講した踊場稔洋常務取締役は、「異業種の若い人たちが真剣に経営を考えていることが刺激になった」と述懐する。研修委員会の委員長を務める橋本貴幸取締役整備部長も「私自身もいろいろなことを学べた。若手の係長らも意欲的になるなど、大きな効果がある」とし、本格的な研修プログラムやカリキュラム作成も検討している。



「従業員の生活がかかっているから、自信を持って働ける職場にするには、将来の見込みがなければならぬ」という大上社長。人材育成により、先を見据えた経営を実践。コアとなるバス事業をしっかりと確立するとともに、そのノウハウを生かして新規事業などのプラスアルファを生み出すことを狙う。「時代の変化に対応できる体力をつけたい」という大上社長の目標に向かって歩み始めている。

## 株式会社道北バス

### ●会社概要

【事業内容】 一般乗合・貸切旅客自動車運送事業など  
【創 業】 昭和19年(1944年) 11月  
【資 本 金】 9,000万円  
【従業員数】 290人

# 受講企業の声

## 株式会社扇松園

支配人 高橋 宏典 氏

### 「家業」から「企業」への 変革を目指して！

#### ■研修受講のきっかけ

中小企業大学校旭川校は、経営課題解決に直結する実践的カリキュラムと、充実した施設など学びの環境が整っている点で、かねてから高く評価していました。研修受講により、新たな考えに触れるとともに新たな出会いが生まれ、将来への可能性が開かれることも大きなメリットと感じています。

私は近い将来、四代目の経営者になります。そのためにも、経営全般の知識と実践力を習得することを目指し、社長と相談して経営管理者養成コースの受講を決めました。

#### ■研修受講の メリットと効果

約半年間に亘る研修では、後半にゼミナールがありますが、私はマーケティング戦略ゼミを選択しました。数名の社員とクロスSWOT分析を行った結果、新たな発見や経営課題を共有するなど、目に

見える形で効果が表れています。

また、中小企業大学校のスタッフからは、研修期間中のみならず、研修終了後もきめ細かなサポートを受けることができることに、満足しています。

#### ■今後の展開と課題について

私が挑戦したい夢は、家業として続いてきたわが社の歴史を、社員が中心となって継続・発展させること。そのためには、社会に必要とされる場所となりえる「家業」から「企業」への変革が鍵になるものと考えています。

数年後には創業80年という大きな節目を迎えますが、付加価値を高めて、顧客から「愛され続ける」ことで、社会に必要とされる企業を目指し歩み続けます。

### 株式会社扇松園（旭川市）

- 会社概要
- 【事業内容】旅館業
- 【創業】昭和13年8月
- 【資本金】2,580万円
- 【従業員数】25名



支配人 高橋 宏典 氏

## 佐々木鉄工建設株式会社

取締役 佐々木 知剛 氏

### 強みを活かしつつ、時代が求めるサービス・価値に 対応できる組織への変革を目指して！

#### ■研修受講のきっかけ

50年以上続いた会社を残したいという想いを実現するためには、事業の見直しや新事業分野への進出など、事業発展のための土台作りが必要と感じていました。

さらに、現代表取締役である父が同様のコースを約30年前に受講した経験があること、経営全般にわたるカリキュラムを学べること、似たような環境の受講者と情報交換ができることなどから、中小企業大学校旭川校の経営管理者養成コースの受講を決めました。

#### ■研修受講の メリットと効果

受講コースの後半に始まるゼミナールでは、組織戦略ゼミを選択しました。その中で、組織改革の方向性や10年後の当社組織のあるべき姿を具体的に描けたことで、100年後でも当社が存続で

きる土台の基礎ができたと感じています。

また、受講者とのネットワークができたことも大きなメリットと感じており、今でも相談をする中から、新規事業のヒントや組織運営上の秘訣などを得ています。

#### ■今後の展開と課題について

当社をさらに100年続く会社へと発展させることを目指しており、道内で当社しか持たない建機の品揃えなどの強みを活かしつつ、時代が求めるサービス・価値に対応できる組織への変革が必要と考えています。

ベテラン職員のノウハウ・技術を継承できる組織体制や、新たなビジネスモデルの確立により、より利益率の高い事業を構築していくことを目指しています。

### 佐々木鉄工建設株式会社（石狩市）

- 会社概要
- 【事業内容】建機レンタル業
- 【創業】昭和38年9月
- 【資本金】1,000万円
- 【従業員数】20名



取締役 佐々木 知剛 氏